

()\*@... )xx

!!...//"" ]++

...))0^ \*

... :;!!



陳 俊傑  
チョーズンパワー  
(ピープルファースト香港)  
23.9.2016 日本大阪

みなさんにはうかがいます。

先ほど私はなんと申ったでしょうか。

私の表現力が不足していたのでしょうか。

みなさんの理解力が不足していたのでしょうか。

私の表現力が不足していたのだと思われる方、

挙手をお願いします。

自分の理解力が不足していたのだと思われ  
れる方、

拍手をお願いします。

私たちの話すことが理解されないと、

なぜ私たちにコミュニケーション能力が欠けていると断言するのでしょうか。

なぜみなさんが私たちを理解できていないと認めないのでしょうか。

私たちを理解できないのであれば、

後見人を探して私たちの代わりに決定させるのではなく、

支援者を探してみなさんの理解を助けるべきです。

みなさんを助けることが難しいのは  
分かります。

だからこそ人々は法律を用いて、  
この難題を片付けようとしています。



その結果、私たちの大人としての地位が  
まず「片付け」られます。  
私たちは助けられる子ども、  
早く老けてしまった人やペットになります。

80年代後半、香港の親は  
後見制度のために闘いました。

10年にわたる活動の結果、  
1999年ついに後見委員会の設置を  
勝ち取りました。

しかし、その結果は多くの親を失望させました。

なぜなら大部分の親には要らないものだったからです。

この後見制度は、  
後見人の権限が及ぶ範囲が  
6つの領域しかなく、  
期間も1～3年のみでした。

政府は家庭が自力で解決することを奨励  
しました。

最後の最後までこの制度は使うべきでは  
ない。

つまるところ、これは人権を剥奪する制  
度だったのです。

私たちの大人としての地位は  
ないがしろにされ続けています。

大人としての地位がなく、

私たちの生活は多くの不自由を強いられています。

たとえば私たちは自分の銀行口座を申請できません。

そのため、専門家はまたも法律を用いて  
これらの難題を片付けようとしています。



今回は私たちの決定権までもが  
「片付け」られようとしています。

2016年、後見制度が17年運用された後、

親は、より充実した後見制度のために  
再び立ち上がりました。

私たちの日常生活のさまざまな面を全  
面的に保護しようとしたのです。

私たちの後見人になるだけでなく、

彼らが亡くなった後も  
彼らの決定が引き続き実行され、

私たちの残りの人生を管理できることを  
確実にしようとしているのです。

みなさんは私たちと相談したでしょうか。

私たちの大人としての地位は  
ないがしろにされ続けています。

私は一個人として、  
セルフ・アドボケイトとして、

私たちの参加がたいへん重要だと  
考えています。

私たちが法律を分からず、  
多くの問題を片付けられないとしてもです。

それでも私たちの参加を通じ、

みなさんに私たちの大人としての地位を  
見せることができます。

私たちのことを気にかけてくれるのであれば、

私たちとも議論を行うべきでしょう。

みなさんが私たちになをしようとしているのか理解させてください。



親は今年、後見制度を改革して  
特殊信託を成立させるよう要求しました。  
そこで政府はチームを立ち上げ、  
特殊信託の実行可能性を検討しています。

政府は引き続き専門家と親を  
招いていますが、

今回は大きな進展がありました。

私が代表となって討論に加わることが  
できたのです。

ついに私たちが参加したのです。

今回も、法律が生み出した問題は  
法律で片付けなければならないようです。

しかし今回は、みなさんの表現力が  
試される番となるはずですよ。

ありがとうございました。